

令和2年度（2020年度）

長野県上田高等学校WWL事業概要

Nagano Prefectural Ueda Senior High School



新しい時代の学びが、ここにある
学びの舞台は“世界へ”

WWL（ワールド・ワイド・ラーニング）コンソーシアム

支援事業カリキュラム開発拠点校に指定されました

WWLはSGH後継事業です

IN THIS ISSUE

WWLコンソーシアム構築支援事業とは？ p.2

持続可能な社会を創るために
一上田高校の取り組み p.3

グローバル課題の現状を知る
海外研修 p.3

5年間のSGH活動を振り返って p.4

文部科学省は、ここ5年間ほどで、全国に約50カ所のWWLコンソーシアム※を構築し、世界で活躍できるイノベティブなグローバル人材を育成することを目指しています。このたび、SDGs（→p.3）達成に取り組む長野県教育委員会は、今後3年間で県内諸機関と連携して高校生の学びを支援するプラットフォーム※を再構築して「信州版ALネットワーク※」を形成することを決定し、文部科学省の指定を受けました。

上田高等学校は、この「『いのち』を視点に、統合的・全体的アプローチによってSDGsを探究する」産・学・官のネットワークを構築する際の拠点校の指定を受けました。その基礎になるのが、昨年度までの5年間に積み上げてきた、グローバル人材育成のためのSGH（スーパーグローバルハイスクール）事業によるカリキュラム開発です。このネットワークによって、県内各地の高校生たちに単独校では得られない学びの機会が与えられ、時間や場所等の条件を超えて、「探究的な学び」をより深めることができます。

※コンソーシアム：互いに力を合わせて目的に達しようとする組織や人の集団、共同事業体

※プラットフォーム：基盤・土台・環境 ※ALネットワーク：先進的学びのネットワーク

WWL コンソーシアム構築支援事業とは？

SGHの学びを深化させ、新しい“学びのかたち”を研究開発します



長野県WWL 構築支援事業構想イメージ図（長野県教育委員会作成）

拠点校としての今後の主な取り組み

これまでのSGHの取組の深化

課題研究（GSI・II・III）海外研修、学外での発信、フィールドワーク等

グローバル視野の拡大

海外留学の奨励、海外研修の拡充、海外大学生インターンシップ受入れ、高校生国際会議の開催（令和4年度）

大学・企業等との連携

データ通信会社との連携による授業開発、国際協働機関、学術機関へのフィールドワーク

探究的な学び・カリキュラム開発

文理融合・STEAM教育を意識した新科目設定、教科横断型授業の研究
※STEAM教育：文理科目を統合的に学習し、創造的な問題解決に取り組む教育

事業連携機関

事業協働機関
（国内外の大学、企業、国際機関等）

（株）KDDI
一般財団法人日本国際協力センター（JICE）
台湾高尾市政府教育局
ミネルバ大学
長野県知事部局各課

拠点校 上田高等学校 共同実施校 松本県ヶ丘高等学校

事業連携校
（国内外の高等学校等）

長野高等学校
篠ノ井高等学校
屋代高等学校
上田染谷丘高等学校
野沢北高等学校
伊那北高等学校
飯田高等学校

松本深志高等学校
長野西高等学校

私立延平高級中学（台湾）
国立苗栗高級中学（台湾）
国立新竹女子高級中学（台湾）
国立科学園區実験高級中学（台湾）

“

社会が変わる

学びが変わる

-Society5.0※に向けた人材育成に係る大臣懇談会

「Society 5.0」とは？
狩猟社会（Society 1.0）、農耕社会（Society 2.0）、工業社会（Society 3.0）、情報社会（Society 4.0）に続く、新たな社会を指すものでサイバー空間（仮想空間）とフィジカル空間（現実空間）を高度に融合させたシステムにより、経済発展と社会的課題の解決を両立する、人間中心の社会（society）（内閣府HPより）

“

常識や前例にとらわ

れず、新しい価値や

未来を創造する力

-上田高校教育理念

NAGANOから世界の「いのち・健康」を一持続可能な社会を創るために

これまでのS G Hでの活動をさらに充実・発展させていきます



SDGs 17のゴール (上) 課題研究発表会 (左下) 協働学習 (右下)

「SDGs (エスディー・ジー・ズ)」とは、「Sustainable Development Goals (持続可能な開発目標)」の略称であり、2015年9月に国連で開かれたサミットの中で世界のリーダーによって決められた、**国際社会共通の2030年までの到達目標**です。(国連 HPより)

グローバルスタディI (1年全員)

グローバル課題を題材としてSDGsについて学びます。県内フィールドワークや国際理解ワークショップ等を通じて自分の研究テーマを設定し、ICT活用能力を身につけながら自ら「課題を発見する力」を養います。

グローバルスタディII (2年全員)

SDGsに関連した自己課題の研究を進めます。英語による授業では論理的思考を用いた発表やディスカッションの手法を学びます。首都圏フィールドワークや台湾研修旅行等で様々なグローバル課題の実情を見聞したり、報告会で全員が研究の成果をポスターセッションで発信します。

グローバルスタディIII (3年選択)

2年間の課題研究の内容をさらに深めます。実際の政策提言につながるよう研究を行い、6月に行われる北陸新幹線サミットで成果を発表し、各地域から集まった高校生たちと研究を共有し、意見交換を行います。

海外研修を通して課題の現状を知る

学びのフィールドは国内だけでなく世界にも

台湾研修旅行 (2年全員)

台湾と日本との間に共通する社会問題について、大学や医療機関・地元企業などを訪問し、台湾の実情を見聞したり、意見発表を行います。また現地高校生との交流や活気ある台北の街を散策するなど、異文化を体験します。

ヒューマン アクト イン マニラ

フィリピンでストリートチルドレンの支援を行っているNPOの活動に参加し、社会における格差の現状やフィリピン国内の社会的課題について学びます。現地の子どもたちとの交流を通じて、自分たちができる支援の在り方について考えます。

ボストン スタディ プログラム

ハーバード大学、マサチューセッツ工科大学等の学術機関を訪れ、論理的構成によるプレゼンテーションについて学びます。世界の第一線で活躍する講師との意見交換や大学寮での滞在は、多様な文化と世界最高峰の「知」に触れる貴重な体験です。

カンボジア井戸プロジェクト

社会の格差を目の当たりにした生徒たちが「自分たちで行える支援のかたち」を模索する中で立ち上げたプロジェクトです。カンボジアの上下水道インフラが脆弱な地域の人々に井戸を贈る資金を集め、実際に現地へ赴き井戸を建設します。



台湾高校交流



マニラ首都圏スラム



マサチューセッツ工科大



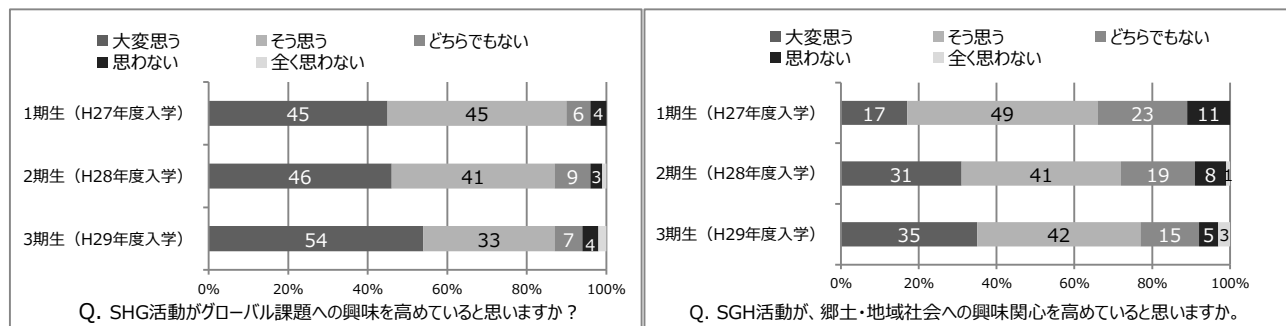
カンボジア井戸掘削作業

スーパーグローバルハイスクール（SGH）5年間を振り返って

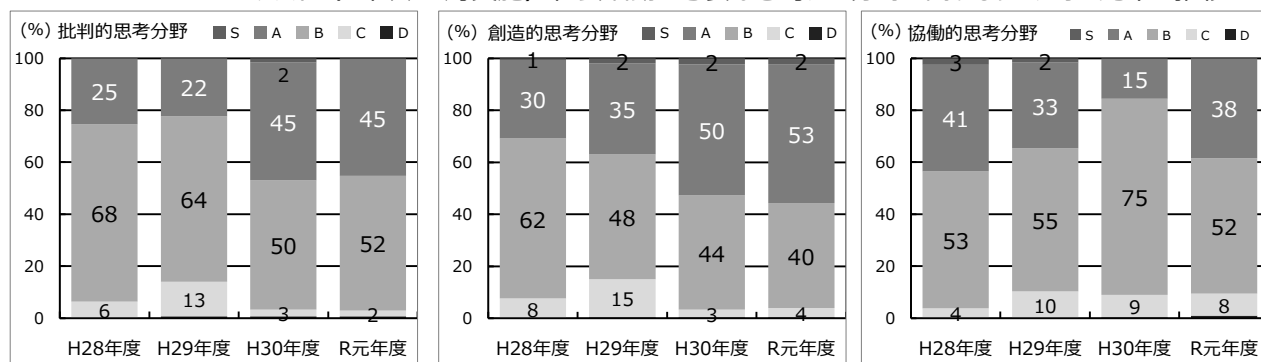
2020年3月をもって5年間のSGH事業を無事終了しました。みなさまのご協力に感謝申し上げます。

生徒アンケート（卒業時）

年度を追うごとにグローバル課題への関心だけでなく、着実にローカル問題への関心も高まってきています。また、社会で必要とされる3つの思考力のうち「批判的」「創造的」思考力は年度を重ねるにつれ向上が見られます。今後はWWL事業のなかで対話的な学びあいのスタイルをさらに取り入れながら、「協働的」思考力の向上を目指してまいります。

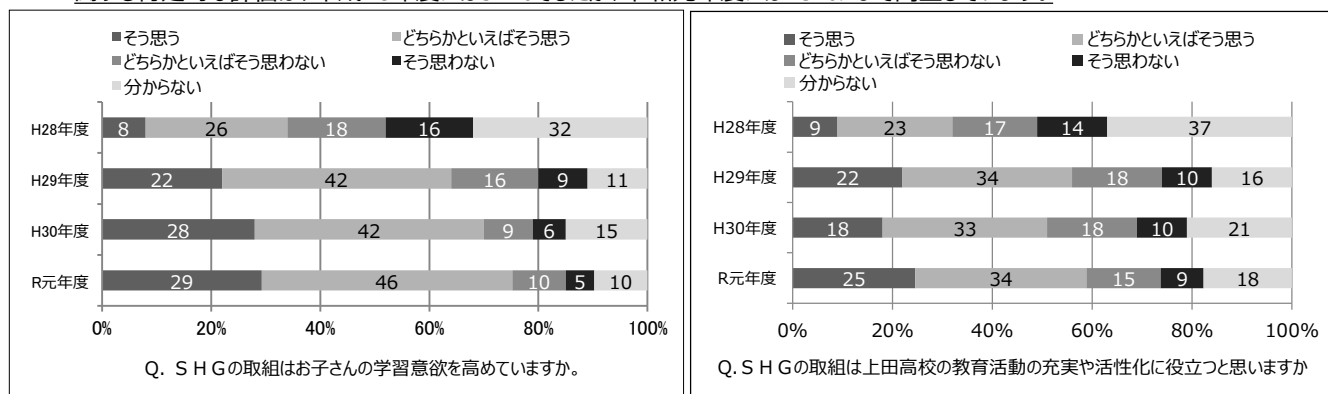


GPS-Academic テスト（2年次12月実施）社会活動に必要な思考力3分野に関するランク毎の比率の推移



3年生保護者へのアンケートより

本校のSGH活動の充実につれて、SGH関連項目の回答に高い評価の比率が増加しました。特に、生徒の学習意欲向上に関する肯定的な評価は、平成28年度には34%でしたが、令和元年度には75%にまで向上しています。



生徒・卒業生の声

自分の将来の生き方、目標を吟味するにはもってこいなので、この活動は大変意義のあるものだと思う。

(116期-SGH1期生)

自分で課題を探る力がつきました。

(117期-SGH2期生)

高校生活で一番頑張ったことはSGHです。SGHで青春しました。入学したての頃の自分と今の自分は大きく違うと思います。SGHを通して変わりました。

(118期-SGH3期生)

SGHの学びの意義は高校時代には分らなかった。なぜこのような学びをするのかと考えていた。しかし、大学生になりその意義が良く分かるようになった。後輩にはその意義を伝えていくのが私たちの役割だと思う。

(大学生・報告会フレンジャー)

見つけたチャンスは逃さない姿勢は、高校時代のSGH活動で培ったと思う。

(大学生・教育学専攻)